

Minami Kyushu University Syllabus

| シラバス年度 | | 2025年度 | 開講キャンパス | | 開講キャンパス | 開設学科 | | 子ども教育学科 | | |
|-----------------|--|---|---------|--|---------|------|--|---------|--------|--|
| 科目名称 | | 視覚障害教育総論 | | | | 授業形態 | | 講義 | | |
| 科目コード | | 750145 | 単位数 | | 1単位 | 配当学年 | | 2 | 実務経験教員 | |
| 担当教員名 | | 中島 浩美 | | | | | | ○ | ICT活用 | |
| 授業概要 | | <p>特別支援教育にとって大切な「障害理解」に関して、障害者観及び根底となる「人間理解」を認識し、視覚の生理・病理、視覚障害の基礎と意味によって視覚障害の基本（概念）を学習する。その後、視覚障害を主体とする特別支援教育と視覚障害児・者の心理、指導法を含む自立活動の総論、及び各論としてコミュニケーション（点字・パソコン等）・歩行（定位と移動）・日常生活動作（ADL；身辺管理等）について全盲と弱視（ロービジョン）を対象とした指導について解説する。加えて、疑似障害体験、障害理解教育と社会啓発（障害者スポーツ）についても触れる。</p> <p>本学では視覚障害領域の特別支援学校免許状取得が主目的ではなく、視覚障害教育に関しては「概論」が対象である。しかし、教員になる以上、視覚障害児を指導する可能性は十分考えられる。講義だけでは、時間的、内容的に不十分である。そこで、「視覚障害児のため」時間外の自学自習に時間を当てて、授業後にだされる課題に対して、自分自身の考えをまとめることでその不足分を補ってほしい。なお、本授業では視覚障害に加え、知的障害、発達障害など他の障害、特別支援教育、総合的な教育のあり方、障害理解教育や社会啓発の背景となる社会様相や変遷・歴史にも適宜触れる。”</p> | | | | | | | | |
| 関連する科目 | | 特別支援教育指導法、視覚障害児の心理・生理・病理 障害者スポーツ | | | | | | | | |
| 授業の進め方と方法 | | <ol style="list-style-type: none"> ①基本プレゼンによる講義形式で進める。 ②講義内容により演習をまじえ体験することができるようにする。 ③教材教具、支援機器等は実物に触れるようにする。 ④グループ協議を取り入れ課題解決に当たる。 ⑤実際の教育現場や関係機関とリモート等で繋ぎ、疑問に思っていることを解決する。 ⑥障害者（視覚障害者）スポーツを体験する。 | | | | | | | | |
| 授業計画【第1回】 | | 社会と視覚障害者 障害理解・視覚の成り立ち 疑似障害体験（アイマスク着用歩行、介助） | | | | | | | | |
| 授業計画【第2回】 | | 視覚障害乳幼児の発達と支援 家庭や医療機関との連携、視覚特別支援学校幼稚部の取組 | | | | | | | | |
| 授業計画【第3回】 | | 盲児と弱視児の指導の実際 触る・聞く・歩くの実体験、環境の整備、教材の工夫、視覚補助具・支援機器 | | | | | | | | |
| 授業計画【第4回】 | | 点字 携帯用点字器、点字ディスプレイ、音声出力と点字出力を用いたパソコン操作 | | | | | | | | |
| 授業計画【第5回】 | | 特別支援学校（視覚障害）の教育課程と年間指導計画 視覚障害の状態等を踏まえた教育の内容と指導内容、重複障害のある児童生徒の各教科等の指導、キャリア教育・進路指導、三療（あん摩、鍼、灸）の指導 | | | | | | | | |
| 授業計画【第6回】 | | 各教科等の指導 年間指導計画と個別の指導計画に基づく学習指導案 | | | | | | | | |
| 授業計画【第7回】 | | 自立活動の指導 幼少期の歩行指導、白杖歩行の指導 | | | | | | | | |
| 授業計画【第8回】 | | 視覚障害者のスポーツ パラスポーツ体験 | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | | <ol style="list-style-type: none"> ①障害理解、その基礎としての人間理解を認識する。 ②視覚の整理・病理、及び視覚障害の概念を学習する。 ③視覚障害乳幼児の発達を理解し、適切な支援のあり方を学習する。 | | | | | | | | |
| 学位授与の方針（DP）との関連 | | 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) | | | | | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 授業時間外学習【予習】 | <p>〈予習〉 次時の内容について、参考図書として示されたものや配布された資料を読み込んで講義内容の概略を理解するとともに、用語等の意味を調べる。（1.5時間）</p> |
| 授業時間外学習【復習】 | <p>〈復習〉 講義後に出される1～2題の課題について、講義を振り返りながら自分自身の考えを整理し、提出期限を守り提出する。（1.5時間）</p> |
| 課題に対するフィードバック | <p>①授業では多くの内容を取り上げるため、補助資料を配布し、授業中、授業後に質問された場合はできる限り授業の中で解決できるように答える ②授業後の振り返りとして、毎回課題を出し、講義を振り返れるように一緒に考え、次時に解説を行う。 ③内容に対して、時間的に不足しているため、アクティブラーニングによる授業形態をとることは困難であるが、アクティブラーニング的な視点を持ちながら講義を進める。</p> |
| 評価方法・基準 | <p>①授業に対する積極性（20%）、授業後課題レポート（20%）、定期筆記試験（60%）によって評価する。本授業は障害児・健全児を指導する教員の養成が目的であることを踏まえ評価する。 ②授業に対する積極性を重要視したいため、実践、演習等を取り入れ、授業後毎回、授業の振り返りのため、1～2問の課題に対する課題提出を求める。 ③試験はプレゼンテーション資料、配布資料、自作ノート等の持ち込みを可とし実施し、評価する。</p> |
| テキスト | <p>適宜資料を配布する。授業はパワーポイントによりプレゼン中心で進める。また、教育現場での授業の様子を録画したものを見たり、視覚障害者支援機器等を実際触れ演習等を行う。また、できる限り現役教師等からの話や関係者の話を直に聞くことができるようリモート等によるやり取りを組み込んでいきたい。</p> |
| 参考書 | <p>テキストは、『新・視覚障害教育入門』（青柳まゆみ・鳥山田子編著、ジアース教育新社）を使用するが、購入の必要はない。また、参考図書として『視覚障害児・者の理解と支援 [新版]』（芝田裕一著、北大路書房）、『新訂版 新学習指導要領（平成29年告示）対応 視覚障害教育入門Q&A』（全国盲学校長会 編著 ジアース教育新社）を併用する。講師が要点をまとめプレゼンテーションテキストを作成し使用する。 その他参考として、広島大学氏間和仁研究室のホームページから研究教材、資料等を紹介しながら授業を進めていく。 障害者スポーツにかかる参考図書として、「全国障害者スポーツ大会 競技規則集」を使用する。</p> |
| 備考 | <p>講師は、視覚障害特別支援学校の校長として勤務。県教育庁特別支援教育指導主事として初任者研修を担当し、特別支援教育全般に精通。前全国盲学校長会理事、九州地区盲学校長会会長を経験。全国の盲学校学校運営の情報を多数持つ。また、公認バラスポーツ指導員の資格を有し、バラスポーツの普及に務めている。</p> |